

はじめての 万葉集

Vol. 8

日本に現存する最古の
和歌集『万葉集』を
わかりやすくご紹介。



つらつら椿



河の辺のつらつら椿つらつら
見れども飽かず巨勢の春野は

(川のほとりのつらつら椿はじく見ても飽きない。
巨勢の春野は。春日藏首老(巻一)の五六)

春日藏首老(巻一)の五六



ツバキは『万葉集』に九首み
られます。椿だけではなく
「海石榴」「都婆伎」「都婆吉」

とも記されています。椿と
表記する植物は中国にもあります
が、実はまったくの別物です。

「海石榴」をツバキとよむの
は不思議に思われるかもしま
せんが、『万葉集』に「八峯乃の
海石榴」(巻十九の四一五二)

と「夜都乎乃都婆吉」(巻二十
の四四八一)とあり、どちらも
八峯のツバキを指すことから

両者の比較によつて「海石榴」
がツバキであることがわかり
ます。

ツバキは日本原産の植物で
す。油がとれることは良く知ら
れています。黒くツルツルとし
た果実が熟すと三つ四つに裂

け、中から褐色の種子ができ
ます。この種子から油を搾り出
すことができるのです。

かつて遣唐使はこの油をもつ
て渡海しました。中国において
海という字がつく植物は海外か
らもたらされたものを指すこと

が多いため、もしかすると「海
石榴」という表記は中国でつく
られたのかもしれませんね。

歌にある「つらつら椿」は、『万
葉集』本文では「列々椿」となっ
ています。葉と葉の間からツバ
キの花が連なつたように咲いて
いるのが見えるようすをいつて
いるのででしょう。まるでツバキ
の連なりを楽しむような、とて
もリズムの良い一首です。

(本文 万葉文化館 小倉久美子)

今回の歌に詠まれている巨勢
は、現在の御所市古瀬の辺りだそ
うです。古瀬にある阿吽寺は椿の
名所で「巨勢山のつらつら椿つら
つらに見つつ思はな巨勢の春野を
あります。この歌は、秋に詠ま
れた、春に咲く椿に思いをはせた
歌です。阿吽寺の椿の見頃は3月
(巻一の五四)」という万葉歌碑
があります。この歌は、秋に詠ま
れた、春に咲く椿に思いをはせた
歌です。阿吽寺の椿の見頃は3月
下旬。この歌碑を見て、春の阿
吽寺を想像してみるのも、樂し
いかもしませんね。



クイズ

先月の答え

③あをによし

ちょっと簡単
だったかな?
今月の問題

Q 次のうち
万葉集に1番最初に登場



万葉ちゃん

- ①大伴家持
 - ②雄略天皇
 - ③天智天皇
- 答えは来月号を見てね